

第2章

全体構想

- 1 都市の将来像
- 2 都市づくりの方針

第 2 章 全体構想

1 都市の将来像

(1) 将来都市像

都市計画マスタープランの将来都市像については、都市づくりの課題などを踏まえ、協働のまちづくりの基本としつつ、持続可能な市の発展を目指し、次のように設定します。

まちがつながる 未来へつながる 住みやすいまち 泉南

【将来像に込めた思い】

都市計画マスタープランの将来像については、定住人口の維持を目指す「第 6 次泉南市総合計画」との整合を図り、まちのつながりや市民のつながりを高めることで、泉南市の魅力を未来へつなげる住みやすい都市づくりに取り組んでいきます。

また、この将来像を市民と共有し、市民と行政が協力しながら、持続発展可能な都市づくりを実現していきます。

(2) 都市づくりの目標

1) 都市づくりの基本的な考え方

本市の人口は、平成 17(2005)年をピークに減少に転じ、その後減少傾向は加速化しています。このような状況下で、これからもまちの活力や賑わいを維持・創出していくためには、とりわけ生産力及び担税力のある生産年齢人口の減少を緩やかにし、定住人口の維持に努めていくことが最も重要です。

こうした認識のもと、定住化を促進するためには、本市の豊かな独自性を発揮した都市づくり、市民協働による身近な地域づくり、地域資源を活かした活力あるまちづくりの展開に取り組む必要があります。このため、本市においては、将来都市像を実現していくため、次のような目標を設定します。

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

参考
資料

全体構想
／
1 都市の将来像

2)都市づくりの目標

①泉南市らしい魅力ある都市づくり

・豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり

本市の魅力である水と花とみどり豊かな自然環境を守り育てるとともに、環境への負荷を低減するなど、脱炭素に資する都市づくりを目指します。

・熊野街道や海会寺跡などの地域資源を活かした都市づくり

本市の風土に培われた熊野街道などの旧街道や海会寺跡などの歴史的資源を活かした個性豊かな都市づくりを目指します。

・泉南市らしい景観を創造する都市づくり

自然景観や歴史景観をはじめ、これらと調和した市街地景観の形成など、「泉南市らしさ」を醸し出す魅力のある景観の都市づくりを目指します。

②定住性の高い安心・快適な都市づくり

・公共交通や徒歩などで移動がしやすい都市づくり

市民の協力を得ながら、安全で快適な幹線道路や生活道路などを確保し、市民を支える公共交通の利便性を高めるなど、公共交通や徒歩・自転車などで誰もが移動のしやすい都市づくりを目指します。

・質の高い生活環境が確保された都市づくり

地域の意見などを反映しながら、公園、下水道などの生活基盤施設を確保するなど、質の高い生活環境が確保された都市づくりを目指します。

・安全に暮らせる都市づくり

災害や犯罪の防止につながる地域力を高めるとともに、防災・犯罪対策を推進し、市民が安全に暮らせる都市づくりを目指します。

③地域の活性化に向けた持続発展可能な都市づくり

・賑わいのある持続可能な都市づくり

南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅周辺の中心拠点における多様な都市機能の集積・強化とともに、南海岡田浦駅周辺と JR 新家駅周辺の地域拠点における日常の生活利便機能などの強化など、便利で賑わいのある都市づくりを目指します。また、市役所周辺の多機能複合拠点における商業業務機能や行政サービス機能などの都市機能の集積を目指します。

・地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり

りんくうタウンにおける産業基盤の確保や市街地内における住環境と操業環境の共存などにより、地域経済の安定と定住化を促す産業が発展する都市づくりを目指します。

・市街化調整区域の特性を活かした都市づくり

農業・漁業の振興を図るとともに、市街化調整区域において、広域幹線道路などの沿道機能や交通結節機能を活用し、交流や産業機能を高めていくなど、人やモノの交流が豊かな都市づくりを目指します。

④公民連携・広域連携の都市づくり

・新たな公民連携を活用した都市づくり

行政、市民や事業者などの多様な主体が適切に連携しながら、地域課題の解決に取り組むため、「公民連携デスク」を導入・活用することにより、新たな公民連携による都市づくりを目指します。

・多様な広域連携による都市づくり

道路の整備やモータリゼーションの進展などによる生活圏の拡大に対応するため、観光や交流の広域化・国際化を近隣市町と連携するとともに、公共施設マネジメントにおいては整備、維持管理や運営の効率化を図るため、近隣市町や関係機関と連携することにより、多様な広域連携による都市づくりを目指します。

■都市づくりの目標の体系

まちがつながる 未来へつながる 住みやすいまち 泉南

①泉南市らしい魅力ある都市づくり

- ・豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり
- ・熊野街道や海会寺跡などの地域資源を活かした都市づくり
- ・泉南市らしい景観を創造する都市づくり

②定住性の高い安心・快適な都市づくり

- ・公共交通や徒歩などで移動がしやすい都市づくり
- ・質の高い生活環境が確保された都市づくり
- ・安全に暮らせる都市づくり

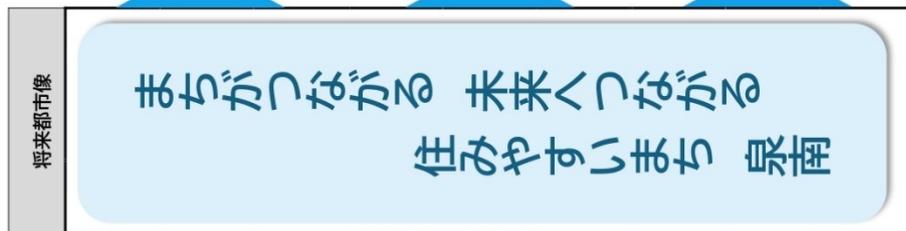
③地域の活性化に向けた持続発展可能な都市づくり

- ・賑わいのある持続可能な都市づくり
- ・地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり
- ・市街化調整区域の特性を活かした都市づくり

④公民連携・広域連携の都市づくり

- ・新たな公民連携を活用した都市づくり
- ・多様な広域連携による都市づくり

■都市づくりの目標と着目すべき視点



都市づくりの目標	
① 景観が美しい魅力ある都市づくり	豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり 熊野街道や海会寺跡などの地域資源を活かした都市づくり 泉南市らしい景観を創造する都市づくり
② 定住性の高い安心・快適な都市づくり	公共交通や徒歩などで移動がしやすい都市づくり 質の高い生活環境が確保された都市づくり 安全に暮らせる都市づくり
③ 地域の活性化に向けた持続発展可能な都市づくり	賑わいのある持続可能な都市づくり 地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり 市街化調整区域の特性を活かした都市づくり
④ 公民連携・広域連携の都市づくり	新たな公民連携を活用した都市づくり 多様な広域連携による都市づくり

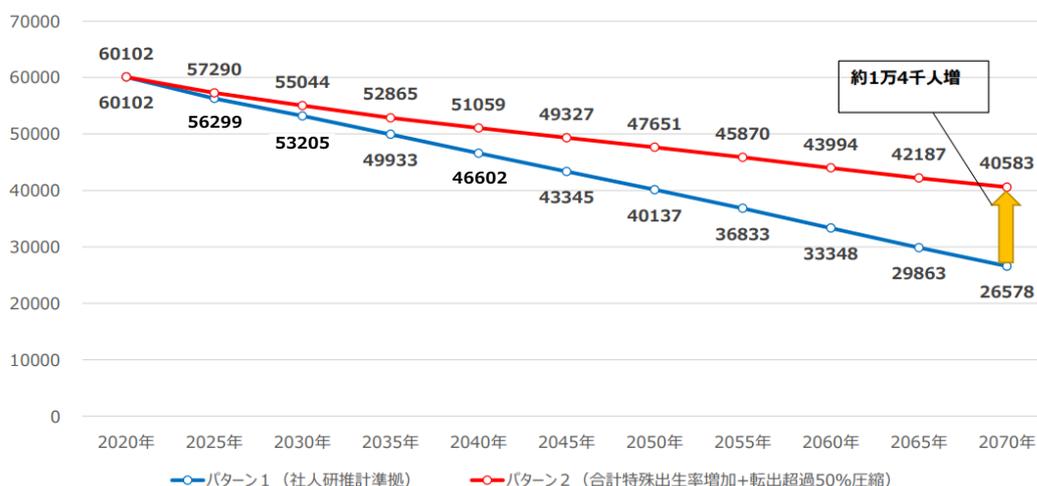
都市づくりにあたって着目すべき視点											
コンパクトな都市づくり											
土地利用計画の適切な見直し											
土地・建物の有効活用											
インフラの適切な維持管理											
交通環境の確保 移動しやすい											
公共施設の最適化											
災害リスクへの対応											
脱炭素化の取組											
地域資源の保全・活用											
公民連携のまちづくり											

(3) 将来人口の推計

将来人口の推計は、国立社会保障・人口問題研究所による推計人口(令和 5(2023)年推計)に基づき、令和 17(2035)年で約 50,000 人と予測されています。

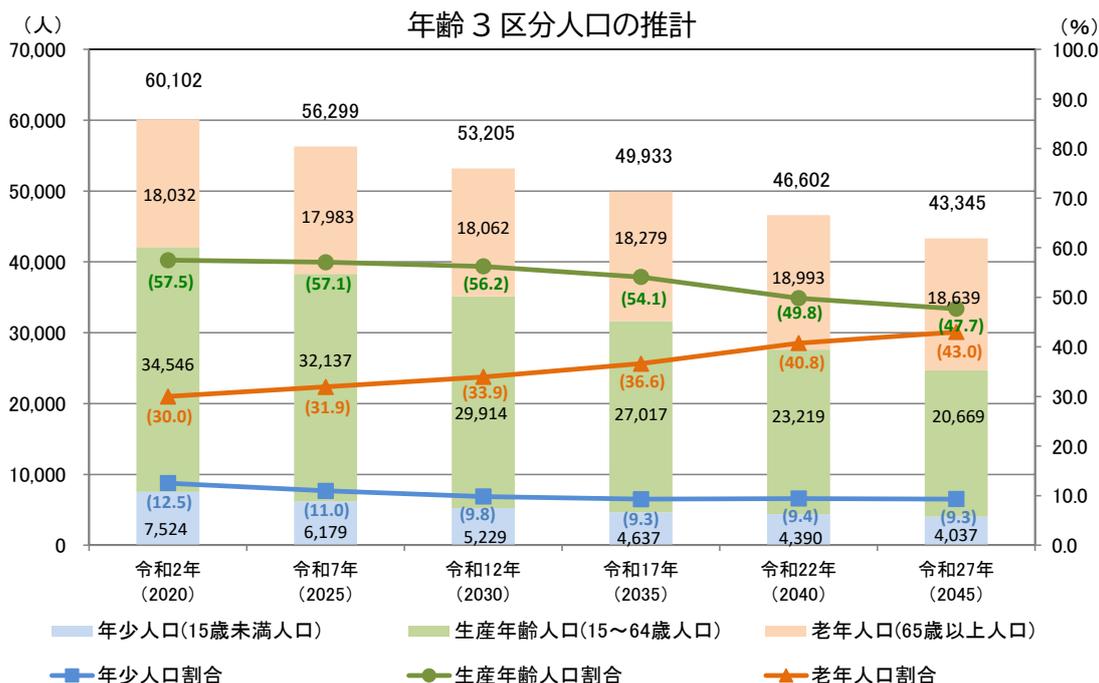
今後は、本市への転入促進と東京首都圏や大阪都市部周辺への転出抑制による転出超過を毎年 50% 圧縮させることで、推計人口の維持に努めていきます。また、市内で働く機会を増やすとともに、観光・交流機能の充実などによって一層の交流人口・関係人口を生み出し、多様な人びとで賑わう活力ある泉南市を創造していきます。

- 本市の推計では、このまま人口が推移すると、2070 年には 26,578 人まで減少することが見込まれている(2020 年に比べ▲55.8%)。
- これに対して、仮に、合計特殊出生率の増加(2030 年に 1.76、2040 年に 2.07 まで回復)と本市への転入促進や東京首都圏・大阪都市部周辺への転出抑制をすることによる転出超過を毎年 50% 圧縮させることを前提とすると、本市の総人口は当初推計よりも約 1 万 4 千人の人口減少を抑制することができる見込まれる。



・社人研推計準拠：人口問題研究所の将来推計（令和 6 年 6 月推計）における出生率を前提とした推計
 ・合計特殊出生率増加：国の長期ビジョンを考慮して合計特殊出生率を設定（2020年：1.45 2030年：1.76 2040年以降：2.07）
 ・転出超過50%圧縮：泉南市からの転出超過が、毎年50%圧縮されるものとした

資料：泉南市未来都市創生総合戦略(素案)



資料：国立社会保障・人口問題研究所(令和 5 年推計)

(4) 将来都市構造

都市近郊の農地や歴史的資源など、地域の資源を保全・活用しながら、4つの鉄道駅や市役所周辺を拠点として公共施設などの適正化を図り、都市機能や居住を誘導するとともに、自然環境と多様な都市機能が調和した土地利用により、利便性の高いコンパクトな都市構造を形成します。

また、金熊寺周辺の集落においては、将来にわたり持続的に集落で生活できるよう、周辺とのネットワークが構築された小さな拠点を形成します。

これらにより、公民連携を活用した持続可能な連携型集約都市「住まう・楽しむ・働く」の実現を目指します。

1) 基本的考え方

- 拠点については、地域の既存ストックなどを活かすなど、多様な都市機能の集積・強化を図ります。
- 既存の道路や公共交通により拠点を有機的に連携し、一体的に機能する交通ネットワークを形成します。
- 都市近郊の農地を保全・活用し、生産や防災、景観などみどりが有する様々な機能と都市機能との共生を図ります。
- 歴史的資源を保全・活用し、個性と魅力ある都市環境を形成します。
- 民間投資を重要な手段と位置づけ、「泉南市民連携推進によるまちづくり基本方針」に基づき、行政と民間企業などが協働・共創する新たな公民連携の都市づくりを推進し、持続的な都市活性化を図ります。
- 「コンパクト・プラス・ネットワーク」の観点から、立地適正化計画の策定及び都市再生整備計画事業の活用に取り組みます。

2) 将来都市構造の形成方針

区分		方針
拠点	多機能型中心拠点	・南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅周辺の都市拠点を結ぶ中心都市軸上は、多様な公共施設、医療施設や商業施設など、行政サービスを中心とした都市機能が集積する多機能型中心拠点を形成します。
	都市拠点	・南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅周辺は、それぞれ海側と山側の玄関口として、交通結節機能の強化や広域的な商業機能などの集積を促進し、地域的な拠点機能を含む都市拠点を形成します。
	地域拠点	・南海岡田浦駅周辺と JR 新家駅周辺は、地域特性に応じた日常の生活利便機能などが集積する地域拠点を形成します。
	交流・レクリエーション拠点	・海側の泉南りんくう公園(SENAN LONG PARK)、タライサザンビーチ、サザンスタジアム、岡田漁港周辺について、賑わいのある交流・レクリエーション拠点機能の維持・向上を図ります。また、山側の依池公園・農業公園、紀泉わいわい村などの交流・レクリエーション施設については、憩いや娯楽、スポーツ、野外活動などを通じて人びとの交流を促進し、海側の賑わいを山側につなげていきます。

区分		方針
	産業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・りんくうタウン南・中地区は、産業の活性化と雇用機会の創出など、産業機能が集積する産業拠点としての役割を確保します。 ・りんくうタウン内では、公園・緑地の整備など産業集積地区にふさわしい美しく快適な環境を維持するとともに、地区内の賑わいの維持・向上を図ります。
	郊外型産業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・阪和自動車道泉南 IC 周辺は、広域交通基盤の優れた交通アクセス機能を活かした郊外型産業拠点を形成します。
	小さな拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活サービス施設などの確保を図るとともに、既存集落の機能や地域コミュニティの維持・向上を目的とする地区計画などの手法を検討します。

区分		方針
軸	中心都市軸	<ul style="list-style-type: none"> ・関西国際空港、JR 和泉砂川駅周辺及び南海樽井駅周辺の都市拠点、市役所周辺の多機能型中心拠点を結ぶ骨格軸として、海側と山側のアクセス性の向上や快適な道路空間などを創出するなど、賑わいとうるおいのある中心都市軸を形成します。
	広域交流軸	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)泉佐野田尻泉南線、(都)樽井男里線、(都)泉南岩出線、(都)第二阪和国道及び阪和自動車道は、沿道のポテンシャルを活用し、都市間を結ぶ広域的な交流の活性化に寄与する広域交流軸を形成します。 ・(都)泉南岩出線沿道では、地域の産業、経済、文化の発展に欠くことのできない重要な路線として、沿道土地活用による地域の活力向上を促進します。 ・(都)第二阪和国道沿道は、生活利便性の向上に資する土地利用を誘導するため、道路空間の再編を検討します。
	歴史文化軸	<ul style="list-style-type: none"> ・府道和歌山貝塚線(熊野街道(紀州街道))沿道は、地域に誇りと愛着を感じ、来訪者との交流を生む歴史文化軸を形成します。

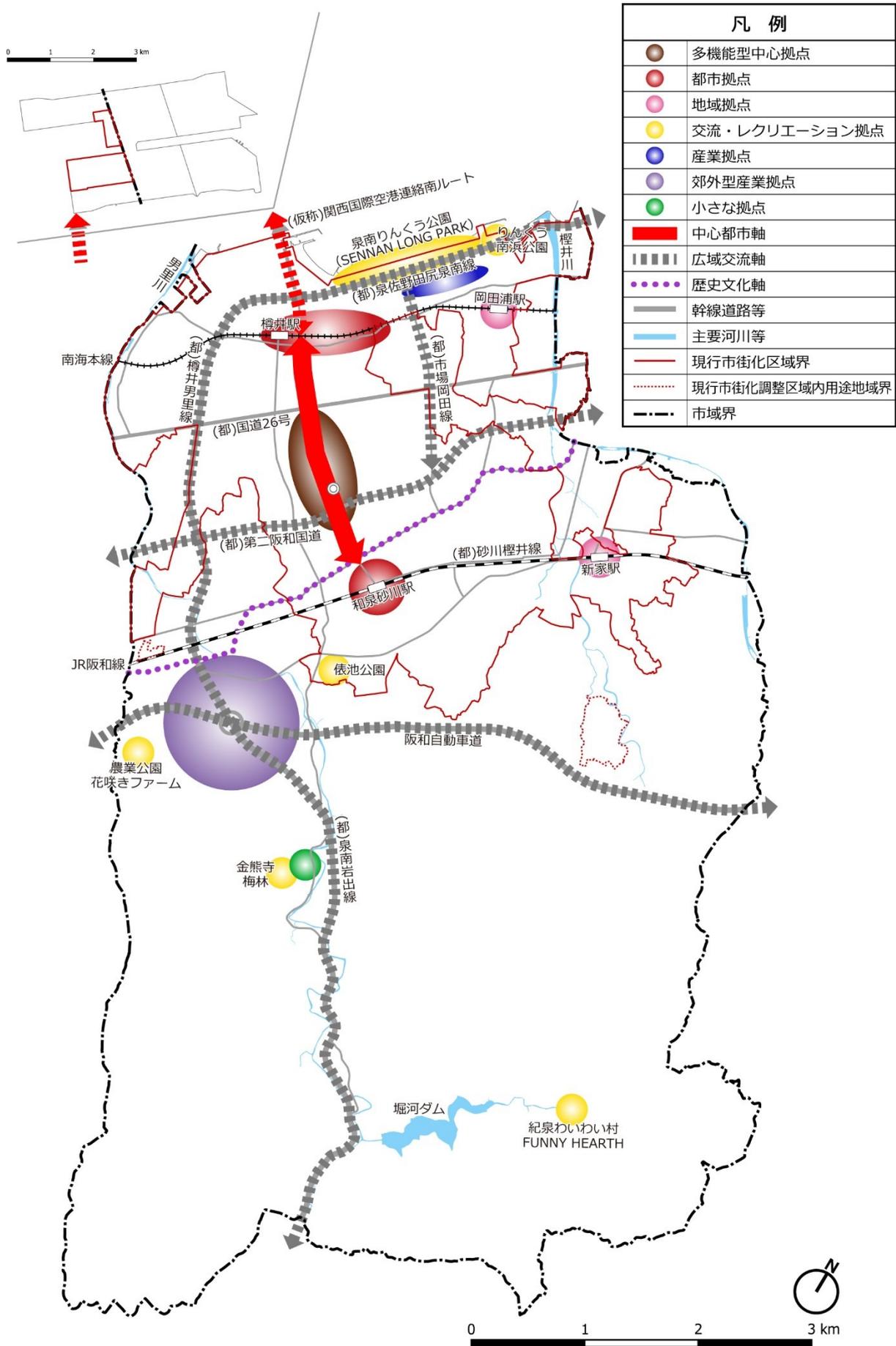


りんくうタウン南地区



(都)泉南岩出線の安全対策工事中

【将来都市構造図】



4つの都市づくりの目標(テーマ)のうち、「公民連携・広域連携の都市づくり」は、他の3つのテーマを実現していくための目標として、「第4章 実現化方策」にて取組を示しています。3つのテーマ別都市づくりの方針は以下のとおりです。

テーマ別都市づくりの方針

分野別都市づくりの方針(P35～67)と都市づくりの目標(P23～25)との関係を整理し、テーマ別の都市づくりへのアプローチを明らかにします。

①泉南市らしい魅力ある都市づくり

- ・豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり
本市の魅力である水と花とみどり豊かな自然環境を守り育てるとともに、環境への負荷を低減するなど、脱炭素に資する都市づくりを目指します。
- ・熊野街道や海会寺跡などの地域資源を活かした都市づくり
本市の風土に培われた熊野街道などの旧街道や海会寺跡などの歴史的資源を活かした個性豊かな都市づくりを目指します。
- ・泉南市らしい景観を創造する都市づくり
自然景観や歴史景観をはじめ、これらと調和した市街地景観の形成など、「泉南市らしさ」を醸し出す魅力のある景観の都市づくりを目指します。

土地利用の方針 【P35～38 参照】

自然環境の 保全・活用 の方針	森林の保全と活用、農空間の保全と活用、生物多様性の確保
-----------------------	-----------------------------

地域環境の形成方針 【P61～64 参照】

環境保全の方針	脱炭素・カーボンニュートラル対策、環境保全対策
---------	-------------------------

地域資源の 活用の方針	観光・レジャー・レクリエーションの機能の維持・充実、観光資源のネットワーク化
----------------	--

都市景観の形成方針 【P65～67 参照】

都市景観の 形成の方針	景観計画の策定、自然景観の保全、歴史景観の保全・活用、まちなみ景観の保全・創出、屋外広告物の規制・誘導
----------------	---

②定住性の高い安心・快適な都市づくり

- ・公共交通や徒歩などで移動がしやすい都市づくり
市民の協力を得ながら、安全で快適な幹線道路や生活道路などを確保し、市民を支える公共交通の利便性を高めるなど、公共交通や徒歩・自転車などで誰もが移動のしやすい都市づくりを目指します。
- ・質の高い生活環境が確保された都市づくり
地域の意見などを反映しながら、公園、下水道などの生活基盤施設を確保するなど、質の高い生活環境が確保された都市づくりを目指します。
- ・安全に暮らせる都市づくり
災害や犯罪の防止につながる地域力を高めるとともに、防災・犯罪対策を推進し、市民が安全に暮らせる都市づくりを目指します。



土地利用の方針 【P35～38 参照】		
道路・交通の方針 【P39～42 参照】	公共交通の方針	バス交通などの充実、鉄道の充実
	道路・交通の方針	安全で快適な道路空間の確保、道路橋の維持管理、生活道路、通学路の安全確保、自転車通行空間の整備、駅前広場などの整備、道路の緑化
公園・緑地の方針 【P43～46 参照】		みどりの基本計画の推進、公園緑地の整備・充実、公園などの適切な維持・管理、レクリエーション施設などの充実、親水空間の確保・保全、緑化の推進、地域制緑地の保全
下水道・河川の方針 【P47～51 参照】	下水道の方針	汚水施設の整備、雨水施設の整備、適切な維持管理、処理場の整備
	河川の方針	河川の治水対策、河川環境の改善と意識の高揚、ため池の改修
その他公共施設の方針 【P52～53 参照】		ごみ焼却場、汚物処理施設、火葬場、集会施設、子育て支援施設、教育施設
都市防災の方針 【P54～56 参照】	都市防災の方針	防災意識の高揚、避難機能の強化、災害に強い都市づくり、復興都市づくり
市街地・住宅地の方針 【P57～60 参照】	市街地の方針	立地適正化計画の策定
	住宅地の方針	居住の促進、計画的住宅団地の再生、良好な住環境の確保、空き家対策の推進、市営住宅の効率的な運用、環境にやさしい住宅の普及

③地域の活性化に向けた持続発展可能な都市づくり

・賑わいのある持続可能な都市づくり

南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅周辺の中心拠点における多様な都市機能の集積・強化とともに、南海岡田浦駅周辺と JR 新家駅周辺の地域拠点における日常の生活利便機能などの強化など、便利で賑わいのある都市づくりを目指します。また、市役所周辺の多機能複合拠点における商業業務機能や行政サービス機能などの都市機能の集積を目指します。

・地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり

りんくうタウンにおける産業基盤の確保や市街地内における住環境と操業環境の共存などにより、地域経済の安定と定住化を促す産業が発展する都市づくりを目指します。

・市街化調整区域の特性を活かした都市づくり

農業・漁業の振興を図るとともに、市街化調整区域において、広域幹線道路などの沿道機能や交通結節機能を活用し、交流や産業機能を高めていくなど、人やモノの交流が豊かな都市づくりを目指します。

土地利用の方針

【P35～38 参照】

道路・交通の方針 【P39～42 参照】	道路・交通の方針	幹線道路などの充実、駅前広場などの整備
	空港の方針	関西国際空港
市街地・住宅地の方針 【P57～60 参照】	市街地の方針	都市拠点の充実、地域拠点の充実、多機能型中心拠点の形成、産業拠点の形成
	住宅地の方針	居住の促進、良好な住環境の確保
地域環境の形成方針 【P61～64 参照】	地域資源の活用の方針	観光・レジャー・レクリエーション機能の維持・充実、観光資源のネットワーク化

都市づくりの目標			都市づくりの方針(課題への対応)								
			土地利用	道路・交通	公園・みどり	下水道・河川	その他公共施設	都市防災	市街地・住宅地	地域環境の形成	都市景観の形成
① 泉南市らしい 魅力ある都市づくり	豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり	自然	●							●	
		環境								●	
	熊野街道や海会寺跡などの地域資源を活かした都市づくり	地域資源								●	
		景観	●								●
② 定住性の高い安心・快適な都市づくり	公共交通や徒歩などで移動がしやすい都市づくり	移動	●	●							
		道路	●	●							
		拠点	●						●		
	質の高い生活環境が確保された都市づくり	道路		●							
		公園			●						
		下水道				●					
		公共施設					●				
	安全に暮らせる都市づくり	居住環境	●						●		
		道路	●	●							
		拠点							●		
防災・犯罪		●					●				
下水道					●						
③ 地域の活性化に向けた 持続発展可能な都市づくり	賑わいのある持続可能な都市づくり	河川				●					
		拠点	●						●		
		公共交通	●	●							
	地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり	道路	●	●							
		産業	●						●		
	市街化調整区域の特性を活かした都市づくり	観光	●							●	
		幹線沿道	●						●		
		拠点	●						●		
	④ 市民連携・広域連携の都市づくり	地域資源								●	
		景観									●
④ 市民連携・広域連携の都市づくり			●	●	●	●	●	●	●	●	

(1)土地利用の方針

1)基本的考え方

- 連携型集約都市を目指して、駅周辺などの拠点において居住や都市機能の集約を図るとともに、それ以外の幹線道路沿道においては、既存の都市機能などを補完する土地利用誘導を図り、これらを適切に組み合わせた土地利用を推進します。
- 人口減少・超高齢社会に見合った都市の容量とすることを基本とし、市街化区域への編入は必要最小限とし、埋立事業の区域、鉄道駅の徒歩圏及び幹線道路の沿道区域を原則とします。
- 計画的な市街化の見込みがない区域及び災害リスクの高い市街化区域は、区域区分の見直しを検討します。
- 用途地域による土地利用規制と現況の土地利用が乖離している箇所の内、周辺的环境や公益上の観点からやむを得ない箇所については、適切な見直しを行います。
- 市街化調整区域は「市街化を抑制する区域」という基本理念を堅持しつつ、幹線道路の沿道地域などの交通条件のよい地域は、市街化調整区域内における開発許可制度や地区計画制度を活用し、農林業的土地利用との調和を図りつつ地域の活性化に寄与する土地利用を適正に誘導します。
- 地域経済の発展に資する産業立地の際の土地利用転換については、地域未来投資促進法の趣旨を踏まえた弾力的で柔軟な運用を行います。

2)市街化区域の方針

商業業務地・近隣商業地

- ・南海樽井駅、JR 和泉砂川駅周辺は、本市の玄関口にふさわしい商業業務地と位置づけ、市民生活の質を高めるため、交通結節点機能の強化とともに、土地の有効活用を促進し、商業業務機能や居住機能などの集積を図ります。
- ・南海岡田浦駅及び JR 新家駅周辺を近隣商業地として位置づけ、地域における生活利便性を高めるため、市所有の未利用財産など様々な既存ストックを活用し、日常サービス施設の集積を促進する施策を検討します。なお、地域特性に合った集客施設は、都市機能の集積状況や交通ネットワークの状況などを考慮した上で適正な立地を誘導します。

低層住宅地

- ・計画的に開発された一団の低層住宅地の区域などは、低層住宅地として位置づけ、空き家の発生などによる都市のスポンジ化対策に配慮し、良好な居住環境の維持に努めます。また、居住誘導政策に応じて、多様な世代の居住促進などによるまちの再生を検討します。

中高層住宅地

- ・鉄道駅・教育施設を中心とした住宅地、旧集落地の区域などは、中高層住宅地として位置づけ、市所有の未利用財産など様々な既存ストックを活用し、良好な住環境の維持・向上や改善に努めます。
- ・UR 泉南一丘団地は、UR 都市機構(独立行政法人都市再生機構)の計画に基づき、定住促進

及び住み替え循環などにより、持続可能な団地として、再生・再編の取組を引き続き促進するとともに、隣接学校施設の再編計画の取組も踏まえ、エリア価値向上に向けて UR 都市機構と連携して取り組みます。

一般住宅地

- ・住宅と店舗、事務所、小規模な工場などが混在する住宅地の区域は、一般住宅地として位置づけ、防災性の向上に配慮しつつ、多様な用途の共存に努めます。なお、地域特性に合った集客施設は、地区計画制度などにより周辺の状況を考慮した適正な立地を誘導します。

住工混在地

- ・小規模な工場と住宅などが混在する区域は、住工混在地と位置づけ、住環境と操業環境との共存関係を維持し、必要に応じて、地区計画に従い、多様な都市機能が調和した都市環境の維持に努めます。

湾岸部

(りんくうタウン)

- ・既存建築物の増改築や土地利用の変更などの動向を踏まえ、また、大規模集客施設が立地する区域については買い物環境の維持・一層の賑わいの向上を図るため、地区計画の適切な運用に努めます。

(空港)

- ・関西国際空港島については、空港施設と位置づけ、都市的土地利用を図る区域では、空港関連各種施設を適切に誘導し、機能拡充を促進します。

沿道利用地

- ・市域を横断する広域幹線道路である(都)第二阪和国道、(都)樽井男里線及び(都)泉南岩出線、(都)国道 26 号線、(都)信達樽井線、(都)市場岡田線、(都)砂川壱井線などの沿道は、沿道利用地として、周辺環境に配慮し、商業施設など多様な産業を積極的かつ適正に誘導します。

3)市街化調整区域の方針

駅周辺型居住検討地域

- ・鉄道駅の徒歩圏の区域は、駅周辺型居住検討地域として位置づけ、農業施策との整合に配慮しながら、地区計画制度などの活用により、生活利便性を備えた良好な住宅を主とした市街地の形成を図るとともに、歩いて暮らせるまちづくりを検討します。

郊外型産業検討地域

- ・泉南 IC 周辺の区域については、郊外型産業検討地域として位置づけ、周辺の自然環境に配慮しつつ、地区計画制度などの活用により、立地の優位性を活かし、市全体の活力を増進す

る様々な産業などの適正な立地を誘導します。

沿道利用地

- ・(都)第二阪和国道、(都)泉南岩出線、(都)国道 26 号線、(都)市場岡田線、(都)砂川樫井線など(府道などを含む)の幹線道路沿道は、沿道利用地として周辺の農業環境などに配慮しつつ、沿道関連サービス施設などを適正に誘導するとともに、地区計画制度などの活用により、地区の特性に応じ、産業・業務施設などの立地を適正に誘導します。

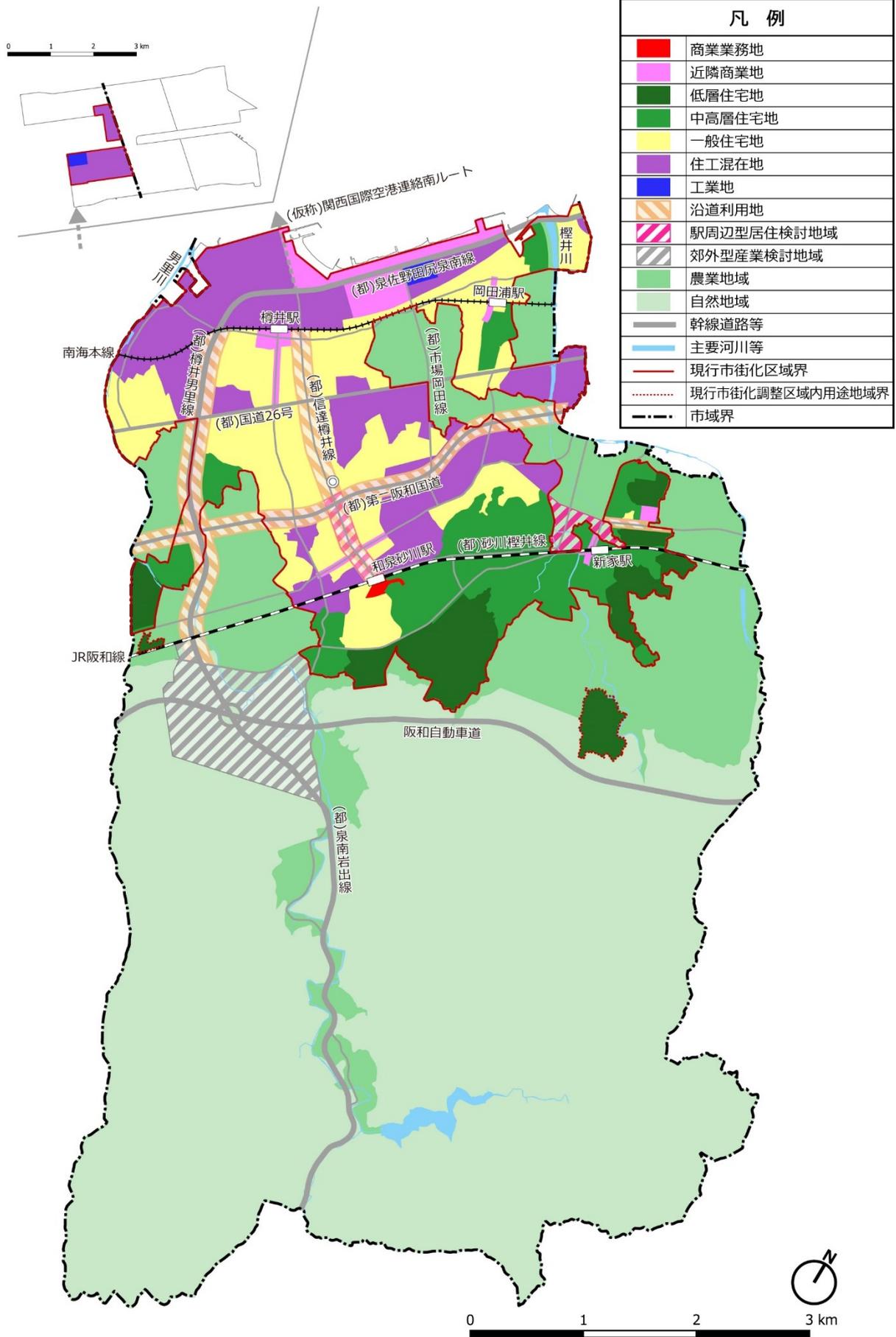
農業地域

- ・農地及び農家集落の区域については、農業地域として位置づけ、優良な農地の保全を図るとともに、地区計画制度などの手法を検討し、既存集落の維持、農林業振興に寄与する農産物加工場、6次産業などの工場、新たな農業施設や店舗などの適正な立地を誘導します。

自然地域

- ・山間部の森林や丘陵部の緑地は、自然地域として位置づけ、国定公園や近郊緑地保全区域などの貴重な自然資源を保全するとともに、自然に親しむレクリエーションや観光機能などを有する施設の維持・向上に努めます。
- ・市街化調整区域の公共施設及びその周辺は、関連法規との調整が図られているものや災害防止のための具体的な措置が講じられる場合は、周辺環境への影響を十分配慮の上、適正な土地利用を地区計画などにより誘導します。

【土地利用の方針図】



(2)道路・交通の方針

1)基本的考え方

- 「新広域道路交通計画」に位置づけのある(都)泉南岩出線の四車線化促進や(都)信達樽井線・(都)砂川樫井線などの市内幹線道路の整備を進め、これら幹線道路との連携を強化する道路交通ネットワークを形成します。
- 「泉南市道路舗装個別施設計画」に基づく舗装の維持管理や橋梁の定期点検などにより、自動車交通の安全性を確保します。
- 新設道路などの無電柱化・自転車通行空間の確保やバリアフリー化などにより、徒歩・自転車で移動しやすい交通環境の充実に努めます。
- 鉄道駅構内、駅前広場などの整備、駅周辺のバリアフリー化などの推進により、公共交通や徒歩・自転車に転換しやすい環境を充実させ、過度な自家用車利用の抑制に努めます。

2)道路・交通の方針

都市計画道路の見直し

- ・都市計画道路については、ネットワーク機能や市街地形成機能、都市防災機能などを考慮した「必要性」や「実現性」など、総合的な検証を行った上で、引き続き見直しを進めます。

幹線道路などの充実

- ・関西国際空港を中心とした広域交通ネットワークを充実するための阪神高速道路湾岸線の南伸などとともに、空港島のリスクマネジメント上、冗長性を確保するため、(仮称)関西国際空港連絡南ルートについては、新広域道路交通計画への位置づけを促進し、早期実現するため、要望及び広報活動を積極的に展開していきます。
- ・紀北地域との連携強化の為、広域道路ネットワーク計画に「紀泉連絡道路」として位置づけられた(都)泉南岩出線の4車線化を促進するとともに、市内の主要拠点を結び、市域の骨格となる(都)信達樽井線・(都)砂川樫井線などの都市計画道路の整備を推進します。また、新設道路については、無電柱化・自転車通行空間の確保などを検討します。



(都)信達樽井線の現況



(都)砂川樫井線の工事中(新家地区)

安全で快適な道路空間の確保

- ・南海樽井駅、JR 和泉砂川駅及び JR 新家駅周辺においては、「バリアフリー基本構想」の見直しに取り組み、生活関連経路や重点整備地区内道路のバリアフリー化などの促進と進捗管理を行うとともに、南海岡田浦駅周辺においてもバリアフリー化を進めます。

- ・「泉南市道路舗装個別施設計画」などを基本として、道路舗装の改築に努めます。また、市民サービスの向上と維持管理経費増大を抑制するため、民間事業者のノウハウを活用する道路など包括管理事業の導入を検討します。

道路橋の維持管理

- ・橋梁については、法令に基づく定期的な点検を実施するとともに、「泉南市橋梁の長寿命化修繕計画」に基づき、予防的・計画的な対応に取り組み、費用の縮減及び道路の安全性・信頼性を確保します。

生活道路、通学路の安全確保

- ・日常生活に密着した生活道路の利便性と通行の安全性及び防災性の向上を図るため、沿道建築物の更新や公共施設の最適化とあわせて市民などの協力のもと、狭い道路の拡幅などに努めます。
- ・アドプト・ロード(プログラム)への団体加入をPRするなど、市民協働による適切な道路の管理に努めます。
- ・通学路に指定されている道路については、道路管理者、警察などと連携した通学路安全対策推進協議会を開催し、交通安全施設などの整備を推進します。
- ・保護者や地域の方々と連携し、通学路の安全確保に努めます。

駅前広場などの整備

- ・南海樽井駅及び JR 新家駅では、交通結節点機能を強化するため、駅前広場などの更新を進めるとともに、暫定整備で供用中の JR 和泉砂川駅では、本格整備を進めます。なお、南海岡田浦駅については、岡田浦駅周辺地区公共施設等再編事業において、駅周辺の特性を踏まえた整備を進めます。

道路の緑化

- ・都市計画道路などの幹線道路の新設に際しては、景観や防災の観点から、土地利用状況に応じた街路樹などの緑化を進めます。

自転車通行空間の整備

- ・「泉南市自転車活用推進計画」に基づき(都)第二阪和国道の自転車道の整備や、幹線道路において自転車通行空間の確保に努めるとともに、市内における自転車の適正利用について周知・啓発を推進します。

3)公共交通の方針

バス交通などの充実

- ・今後、「立地適正化計画」の策定に際しては、「泉南市公共交通計画」の策定に取り組むとともに、当該計画に基づき、地域山側の交通弱者の支援や公共施設、観光名所を巡回する新たな公共交通の検討を進めます。
- ・市民の生活交通や交通弱者に対する交通手段を確保するため、さわやかバス(コミュニティバス)の維持・充実とともに、路線の見直しやダイヤ改正などにより、一層の利用を促進します。また、ライドシェアの導入について検討します。
- ・コミュニティバスをはじめ、路線定期型交通などを組み合わせた、公共交通ネットワークの形成に努めます。
- ・カーシェアや自動運転などの新たな交通システムの導入について検討します。



泉南市さわやかバス

鉄道の充実

- ・鉄道駅へのアクセス性の向上とともに、列車運転本数の維持や無人駅対策について鉄道事業者に働きかけます。

4)空港の方針

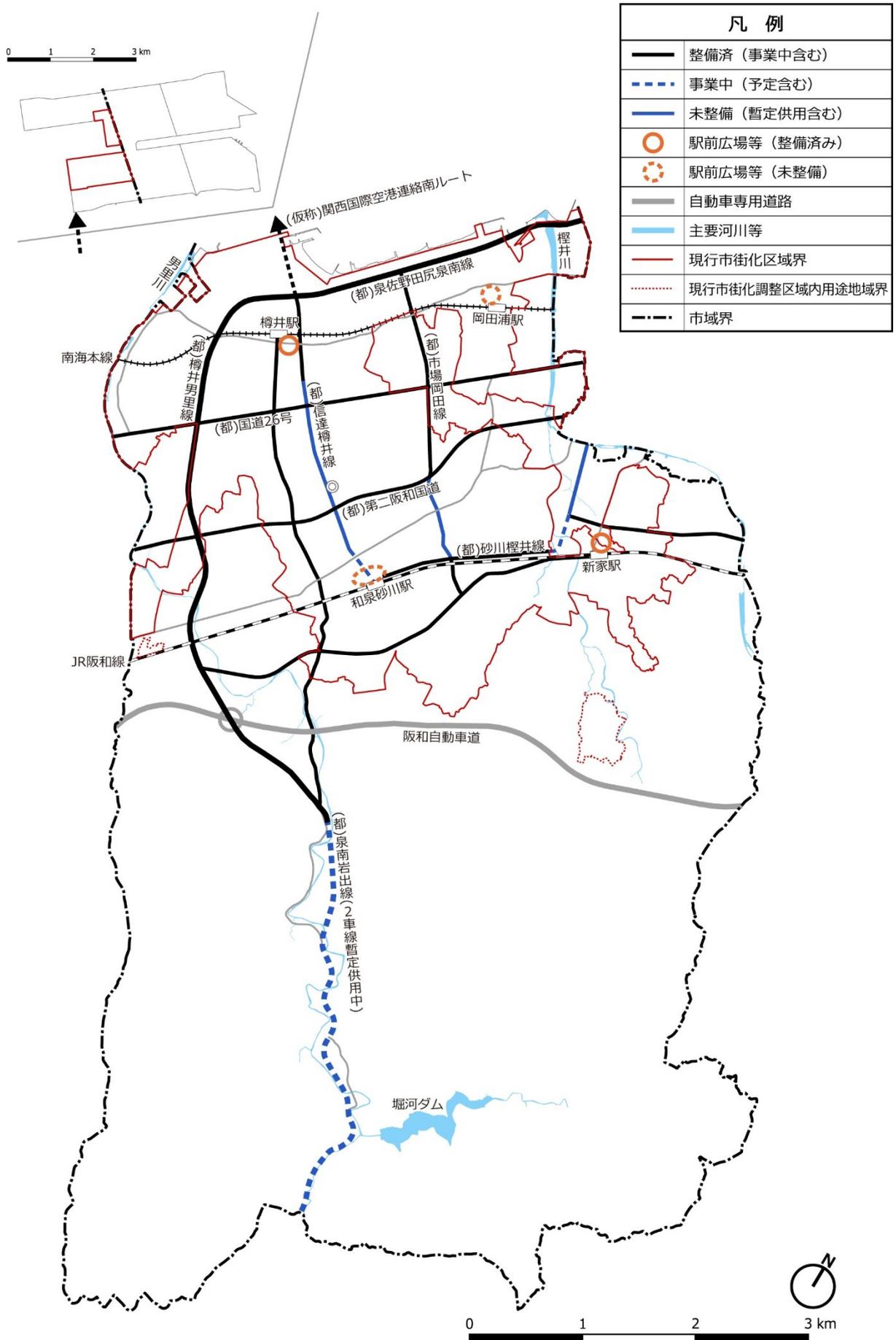
関西国際空港

- ・関西国際空港と連携し、広域経済の活性化やインバウンド(訪日外国人旅行)を活かした観光の活性化を図ります。また、アジアをリードする国際空港としての機能やアクセス性を強化するため、近隣市町と連携しながら、広域交通ネットワークの構築を促進します。



関西国際空港

【道路・交通の方針図】



(3)公園・緑地の方針

1)基本的考え方

- 都市公園やレクリエーション施設などの整備・充実などにより、みどり豊かな都市づくりを推進します。
- 骨格となる“みどり”の拠点と軸の整備を促進し、賑わいと交流豊かな都市環境を創出します。
- 公共施設や民有地などにおける緑化を推進・促進するとともに、市民協働により、みどり空間の適切な管理に努めます。
- 都市公園などについては、P-PFI など官民連携(PPP)手法の導入により、都市公園などのリニューアルや効率的な維持管理を推進し、魅力ある都市空間の創出に努めます。

2)公園・緑地の方針

みどりの基本計画の推進

- ・「泉南市みどりの基本計画」に基づき、緑地の保全や緑化の推進などに取り組みます。

公園緑地の整備・充実

- ・都市の緑について、市民にうらおいのある都市環境をはじめ、健康増進、レクリエーション、景観の形成、防火・避難などの防災空間に活用するため、公園・緑地などの確保に努めます。
- ・少子高齢化や人口減少などに対応するために、健康増進や子育てしやすい環境づくりに配慮した公園機能や配置の再編・再生に取り組みます。
- ・泉南りんくう公園(SENNAN LONG PARK)においては、PFI 事業(民間の資金、技術的能力などを活用する手法)により施設の適切な管理運営を継続します。
- ・長期未着手の泉南中央公園予定地については、一部の区域については暫定利用を行いつつ、今後のあり方を検討します。また、男里公園については、周辺施設の取組の動向によっては、再配置などを検討します。
- ・「泉南市都市公園等管理運営プラン」に基づき、俵池公園、りんくう南浜公園などにおいては、P-PFI など官民連携(PPP)手法の導入や、市民参加による公園の整備、リニューアル化に取り組みます。



泉南りんくう公園
(SENNAN LONG PARK)

公園などの適切な維持・管理

- ・「公園施設長寿命化計画」に基づき、遊具などの安全対策の強化とライフサイクルコストの縮減に努めるとともに、「泉南市都市公園等管理運営プラン」に基づき、都市公園などの効果的・効率的な維持管理に取り組み、一層魅力のある空間にしていきます。

レクリエーション施設などの充実

- ・農業公園「花咲きファーム」はイングリッシュローズガーデンに加えて、「泉南市都市公園等管理運営プラン」に基づき地域などと協働し、市内外からの来訪者を対象としたレクリエーション施設として魅力向上に努めます。



農業公園「花咲きファーム」

- ・紀泉わいわい村、青少年の森などは、豊かな自然とのふれあうレクリエーションの場として、利用の促進につながるよう積極的な情報発信に努めます。



紀泉わいわい村



青少年の森

- ・桜の名所である堀河ダム、お菊松周辺など良好な眺望の確保や周辺環境の保全に努めます。

親水空間の確保・保全

- ・マーブルビーチやタリイサザンビーチは、市民などが海と親しめる空間として、イベントの開催などソフト事業により賑わいの創出に努めます。
- ・男里川河口付近の自然干潟や(仮称)りんくうはらっぱ周辺では、生物多様性を確保するため、動植物の生息・生育環境を保全します。



マーブルビーチ



タリイサザンビーチ

緑化の推進

- ・ヒートアイランド現象の緩和やうるおいとやすらぎのあるまちづくりを推進するため、「大阪府自然環境保全条例」に基づき、一定規模以上の敷地における緑化を促進します。
- ・地区計画の策定に際しては、緑化率 20%を基本とします。

地域制緑地の保全

- ・市街化区域内農地などについては、農業と調和した良好な都市環境を確保するため、市街地の貴重なみどりやオープンスペース、防災機能にも着目し、生産緑地地区の追加指定や、特定生産緑地の適切な管理を促進します。
- ・男神社周辺の特別緑地保全地区では、良好な社叢林などの保全に努めます。
- ・豊かな自然環境を確保するため、金剛生駒紀泉国定公園などにおける森林を保全します。

序章

第1章

第2章

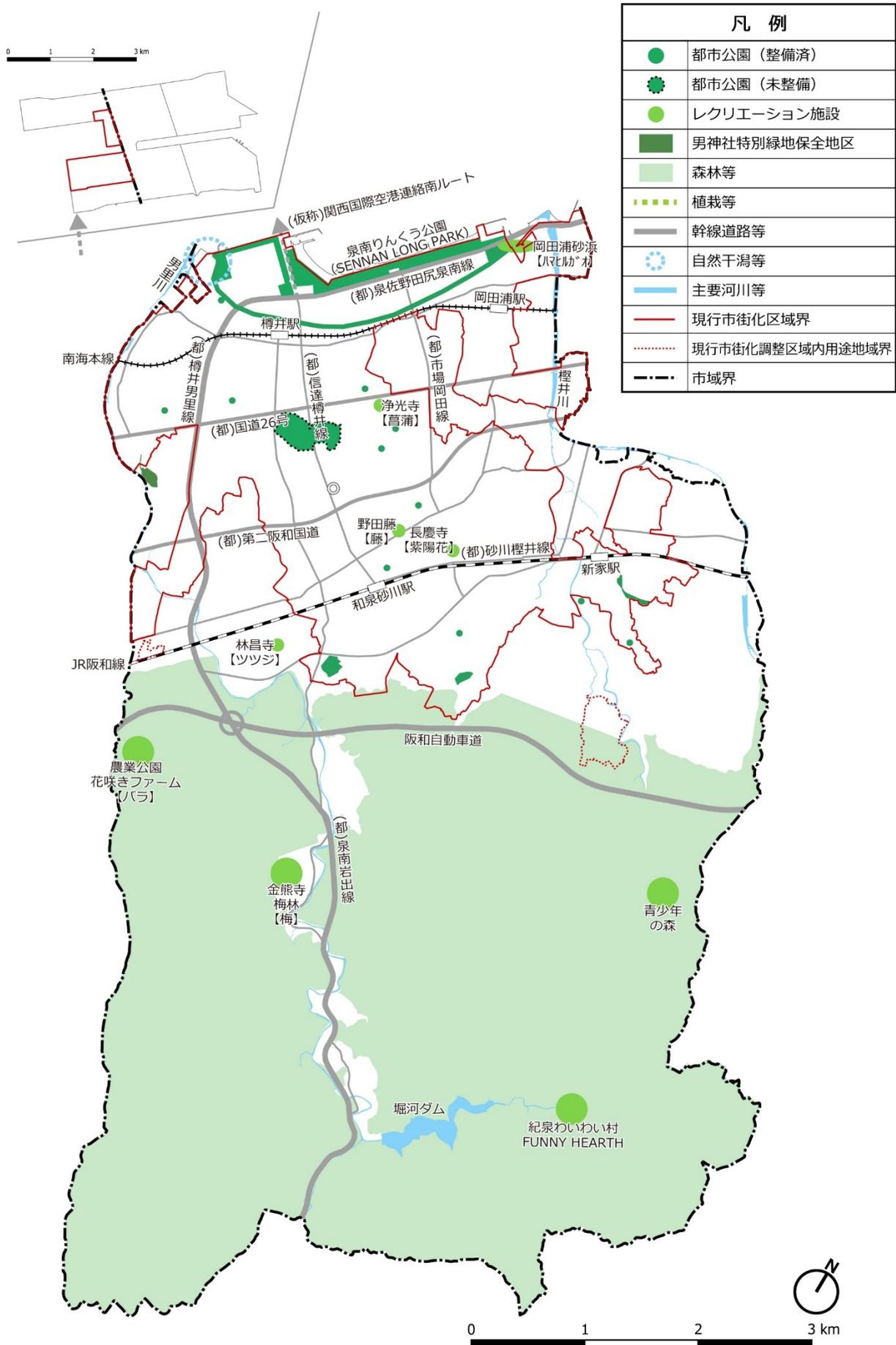
第3章

第4章

参考
資料

全体構想 / 2 都市づくりの方針（公園・緑地）

【公園・緑地の方針図】



(4) 下水道・河川の方針

1) 基本的考え方

- 公共下水道は、汚水の適正な処理により公共水域の水質を保全し、快適な生活を支えるとともに、都市型水害に強い安全で安心なまちづくりを推進します。
 - 下水道施設の適切な維持管理や効率的な経営より、下水道経営の一層の効率化・健全化に努めます。
 - 樫井川水系や男里川水系をはじめとする河川やため池については、人命を守ることを最優先に総合的・効果的な治水手法の組合せにより安全性を確保するとともに、河川管理者である大阪府と連携し、「流域治水プロジェクト」などに基づく河川の改修など、治水と利水、環境との調和に配慮した総合的な水害対策を進めます。
 - 樫井川・男里川下流部においては、生物多様性や景観にも配慮した市民に愛される水辺空間の形成に努めます。
- ※流域治水プロジェクト; 河川整備に加え、流域のあらゆる関係者が協働して行う対策も含めた治水対策の全体像をとりまとめたもの

2) 下水道の方針

汚水施設の整備

- ・下水道事業の効率化と健全な経営化を図るため、「泉南市公共下水道整備計画」に基づき、下水道普及率の向上に努めます。
- ・下水道計画区域外については、単独浄化槽などから合併浄化槽への設置替えを促進します。

雨水施設の整備

- ・「泉南市公共下水道整備計画」に基づき、浸水被害の軽減を図るため、老朽化している下水道施設の改修・改築を検討します。

適切な維持管理

- ・「泉南市ストックマネジメント計画」に基づき、中部ポンプ場の設備などのライフサイクルコストの最小化を図ります。
- ・ゲリラ豪雨などによる浸水被害を防止するため、雨水幹線取入口などの能力を十分に発揮できるよう、適切な維持管理を行い、内水氾濫の対策を進めます。
- ・「泉南市ストックマネジメント計画」に基づき、大里川ポンプ場の移転・建替え及び建替え期間までの設備更新や管渠などの適切な維持管理を行います。
- ・雨天時などに汚水管へ流入する不明水対策などを推進します。



中部ポンプ場



大里川ポンプ場

処理場の整備

- ・南部水みらいセンターの設備の増強を大阪府に要望するとともに、汚水管渠に流入する雨天時侵入水の対策などを推進します。
- ・循環型社会や脱炭素社会の実現を目指すため、南部水みらいセンターにおいて、処理水を泉南りんくう公園(SENNAN LONG PARK)やなみはやグラウンドへの散水に再利用をするとともに太陽光発電プラントの適切な管理・運営とともに、大阪南下水汚泥広域処理場における発生活泥の再資源化を引き続き要望します。



南部水みらいセンター

3)河川の方針

河川の治水対策

- ・自然災害から市民の安全・安心を守るために、「防ぐ」「逃げる」「凌ぐ」施策の強化に努めます。
- ・樫井川水系流域及び男里川水系流域については、確実な総合治水対策を促進するため、大阪府の流域治水プロジェクトの進捗を注視しながら、効率的な浸水被害対策に取り組みます。
- ・樫井川、新家川、男里川、金熊寺川などの土砂堆積傾向区間における土砂浚渫などを促進します。



土砂浚渫の様子

河川環境の改善と意識の高揚

- ・樫井川、男里川は、地域住民などのニーズに応じて関係機関などと連携し、地域住民が愛着を持てる親水空間を整備します。
- ・泉佐野市に隣接する樫井川の区間においては、沿川の歴史資源や自然環境を活かした魅力ある水辺空間を創出するため、大阪府・泉佐野市の「かわまちづくり計画」と連携します。
- ・自発的な地域活動を河川の美化につなげる「アドプト・リバー(プログラム)」により、市民協働による清掃活動への取組の拡大を促進します。
- ・河川が持つ自然の豊かさや危険性の認識をこどもの頃から身につけることを目的とした男里川干潟の観察会や(仮称)りんくうはらっぱなどの情報発信に努めます。



男里川干潟

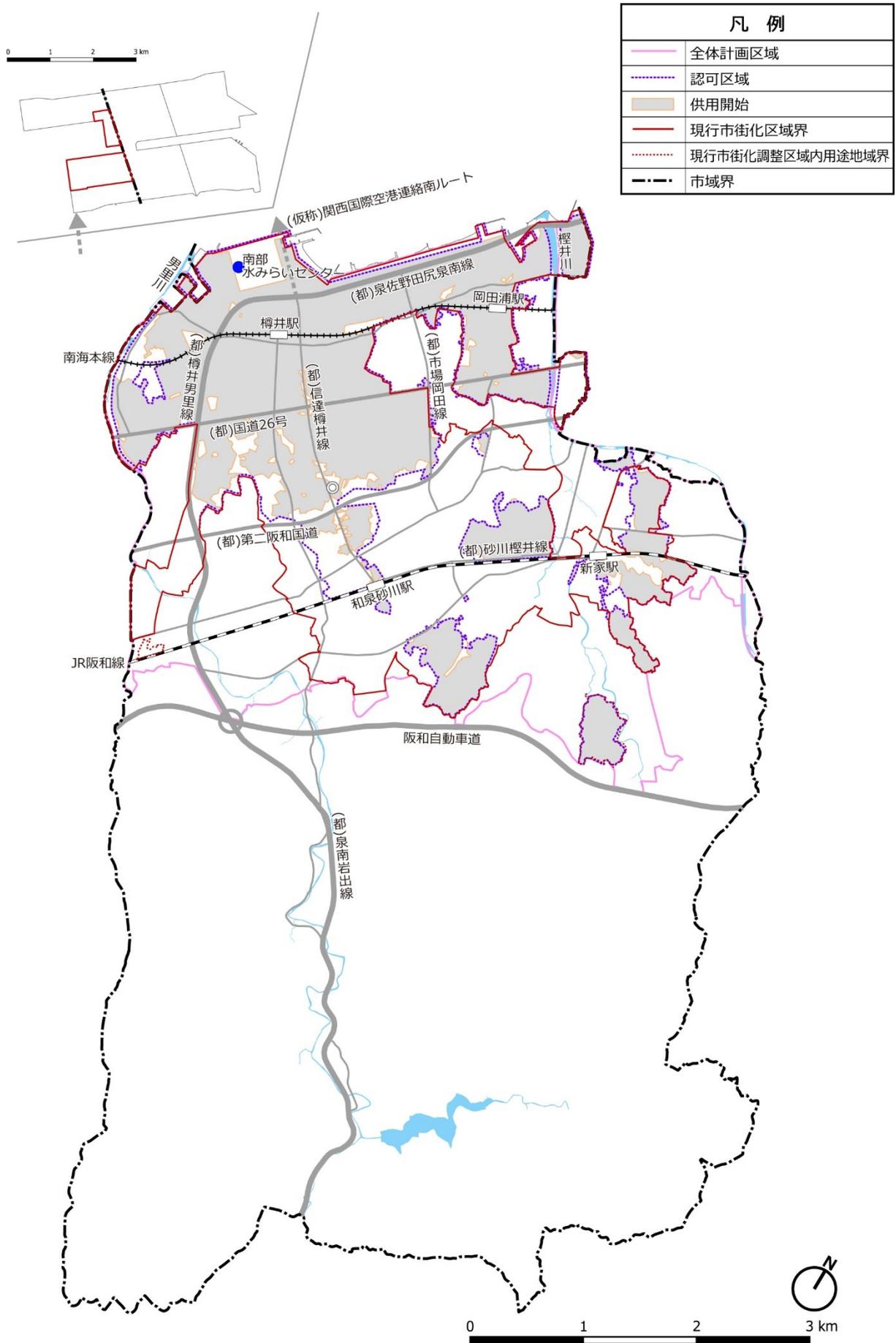


(仮称)りんくうはらっぱ

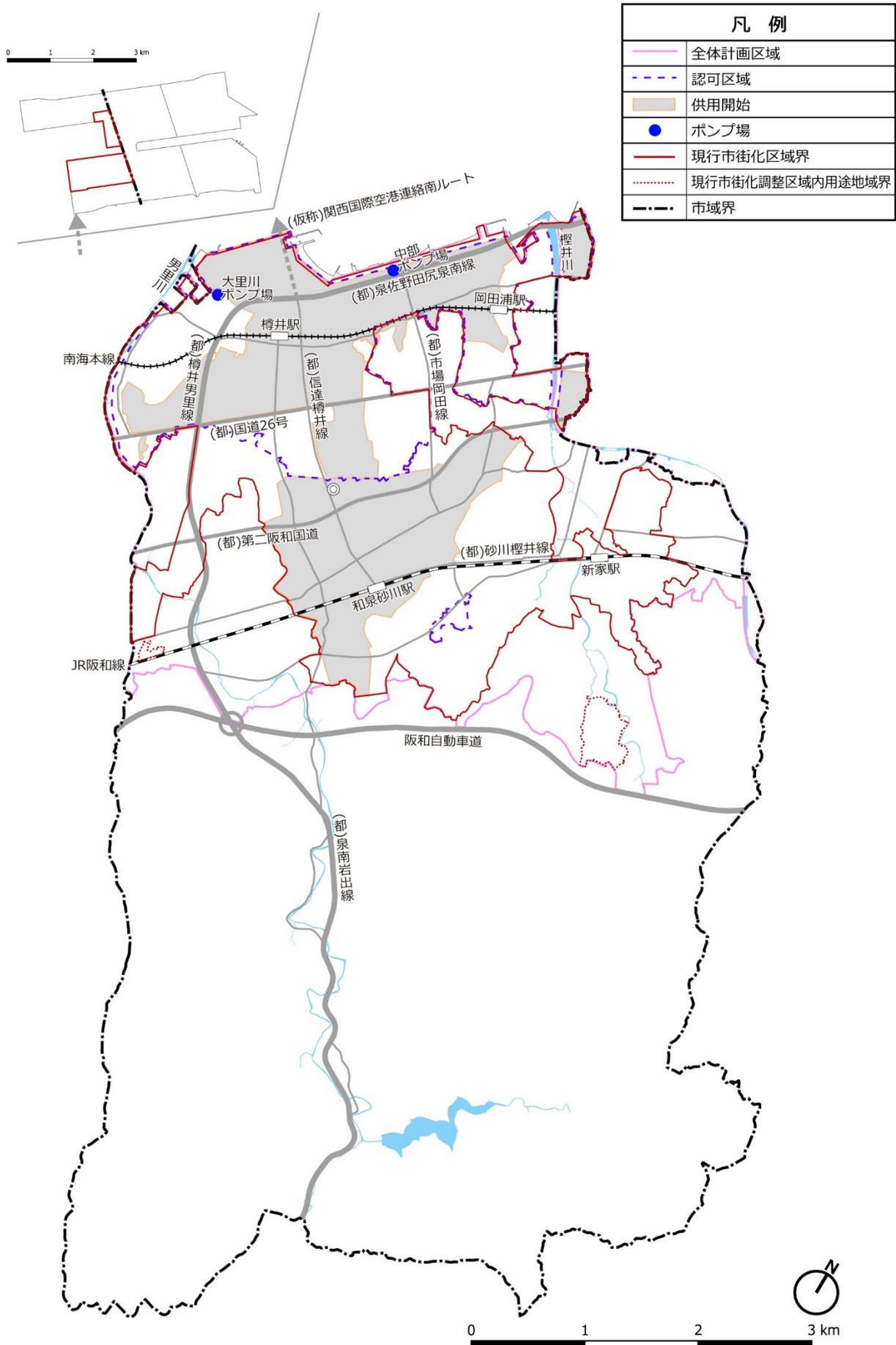
ため池の改修

- ・ため池の堤体が決壊した場合に備え、防災受益面積が広範囲で、近隣施設への影響が大きいと予想されるため池を対象にハザードマップを随時作成していくとともに、耐震性の向上が必要なため池の改修を促進します。
- ・ため池の防火用水としての機能も含めた防災活用について、調査・検討を行います。

【下水道の方針図(汚水)】



【下水道の方針図(雨水)】



序章

第1章

第2章

第3章

第4章

参考資料

全体構想 / 2 都市づくりの方針 (下水道・河川)

(5) その他公共施設の方針

1) 基本的考え方

- 「公共施設マネジメント(FM)」の考え方に基づき、将来の人口規模などに応じた公共施設などの最適化を推進するとともに、公共施設の包括的な維持管理の導入に取り組みます。また、近隣自治体との広域連携と官民連携(PPP)を組み合わせた公共施設マネジメントの推進に努めます。
- 公共施設の長寿命化や CN(カーボンニュートラル)・GX(グリーン転換)などの脱炭素化の取組など、安全性や環境に配慮するとともに、利用者の年齢、国籍、性別、障がいの有無などに関わらず、誰もが利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザイン化を図ります。
- 公共施設などの最適化にあたっては、「泉南市公共施設等最適化推進基本計画」及び「泉南市公共施設等最適化推進実施計画」に基づくとともに、「泉南市公共施設等個別施設計画」により、個別施設ごとの具体的な取組を推進します。
- 公共施設の統廃合などに伴う跡地については、地域の実情を踏まえつつ、官民連携(PPP)手法導入による活用を検討し、有効活用を図ります。
- 道路や公園などのインフラについては、個別施設の修繕を重ね、長寿命化を図ることを基本としつつ、広域的な視点により、複数・多分野のインフラを「群」として捉え、更新や集約・再編、新設も組み合わせた検討により、効率的・効果的にマネジメントし、地域に必要なインフラ機能・性能の維持を目指します。

2) その他公共施設の方針

ごみ焼却場

- ・ごみ焼却場(泉南清掃工場)については、令和6(2024)年に都市計画決定し、泉南清掃事務組合が老朽化した清掃工場を建て替えます。



ごみ焼却場(泉南清掃工場)
イメージパース

汚物処理施設

- ・都市計画施設である双子川浄苑については、施設の建替えとあわせて効率的な運用を図ります。



双子川浄苑

火葬場

- ・都市計画施設である泉南火葬場は、指定管理者制度の活用により、市民ニーズに対応したサービス水準や柔軟な管理運営を維持します。



泉南阪南共立火葬場

集会施設

- ・公民館は、地域住民のコミュニティ活動を確保・促進するため、現状を維持しつつ、必要に応じて集会所などの周辺機能を集約・複合化を進め、拠点化を図ります。
- ・集会所は、区・自治会の意向調査などや民間譲渡への可能性調査を進めつつ、隣接する集会所などの統合や地元への譲渡を促すとともに、民間への機能移転について検討します。
- ・老人集会場は、集会所とあわせて検討します。

子育て支援施設

- ・安心して子育てができる環境づくりを推進するため、就学前児童数の減少や施設立地のバランスなどを考慮し、全市1区の保育提供区域を設定し、柔軟性のある需給調整に取り組みます。

教育施設

- ・「泉南市立小中学校再編計画」に基づき、小中一貫教育を効果的、効率的に進めるため、教育施設の再編を推進します。

(6)都市防災の方針

1)基本的考え方

- 「泉南市強靱化地域計画」に基づき、国や大阪府の強靱化に関する施策との調和を図りながら、関係者相互の連携のもと、強さとしなやかさを持った強靱な地域づくりに取り組みます。
- 立地適正化計画において防災指針を検討し、防災対策と事前復興対策の2つの側面を持った事前防災型のまちづくりに取り組みます。
- 減災の考え方を基本理念に、市民の生命や財産を守るため、南海トラフ地震などの大規模地震や台風・豪雨による風水害への対応・強化に必要な対策を泉南市地域防災計画に位置づけ、災害に強い都市づくりを推進します。
※「事前復興」とは、自分たちの住むまちの災害リスクを知り、あらかじめ被災後のまちづくりを考えることによって、まちの防災性を向上しようとする取組

2)都市防災の方針

防災意識の高揚

- ・ハザードマップの随時更新や防災訓練などの実施に努めるとともに、災害における避難活動を速やかに行うため、防災無線と情報通信機器を連動させ、防災情報の文字化、画像化、音声化などを図るネットワークシステムの構築を推進します。
- ・自主防災組織については、災害時における地域防災力を高めるため、組織の結成を促進し、活動や必要な資機材の支援・助成とともに、消防団の機能強化に努めます。
- ・地震発生時に、液状化による建物被害を軽減するため、大阪府の「液状化の可能性マップ」を公表し、大阪府や関係団体などと連携を図りながら普及啓発に努めます。



避難機能の強化

- ・企業などの防災活動や資機材の保管倉庫棟に必要な広場などの確保に努めます。
- ・防災農地の登録制度など、災害時の避難場所や復旧活動のスペースを確保します。
- ・被災者の避難生活を支援するため、必要な避難所指定や避難所受入れ体制の確保に努めます。また、災害発生後に、居宅、避難所などでは自立的な生活などが困難な要配慮者の避難生活を支援するため、社会福祉施設の協力を得て福祉避難所(二次的避難所)の確保に努めます。
- ・津波から命を守るため、市民・事業者などの協力を得ながら、津波避難ビルの追加指定などを進めます。
- ・子どもの安全対策を組織的に構築するため、避難



消防訓練の様子

訓練の充実などともに、学校園の防犯機能や見守り体制を強化します。

災害に強い都市づくり

- ・避難路や延焼遮断空間としての機能を有する緊急交通路などの整備に努めます。
- ・避難路機能を有する緊急交通路などは、引き続き無電柱化に努めます。
- ・道路などの公共施設が不足し、木造建築物の多い地区については、狭あい道路の改善や公園・緑地などのオープンスペースの確保に努めます。
- ・建ぺい率60%以上の市街化区域においては、火災の延焼防止・遅延を図るため、耐火・準耐火建築物への建替えによる不燃化を促進します。
- ・自然災害に対する被害を軽減するため、見直し予定の「泉南市耐震改修促進計画」に基づき、木造住宅の耐震化を促進します。
- ・浸水被害を軽減するため、老朽化している下水道施設の改修・改築とともに、雨水管渠の適切な維持管理に努めます。
- ・土砂災害、洪水などから、迅速かつ円滑に避難できるよう、病院や介護施設などの要配慮者利用施設事業者に対し、災害対策マニュアルの作成や避難訓練の実施とともに「避難確保計画」の作成を支援します。
- ・都市の防災に関する機能の確保を図るため、居住や都市機能の誘導を図る「立地適正化計画」とあわせて、災害ハザードエリアにおける具体的な取組を定める「防災指針」の作成を検討します。
- ・重要な防災拠点である市役所のあり方について検討し、耐災化及び災害時の代替施設の確保を推進します。
- ・発災時に備え、市内の事業者などと防災に関する協定の締結に引き続き取り組みます。

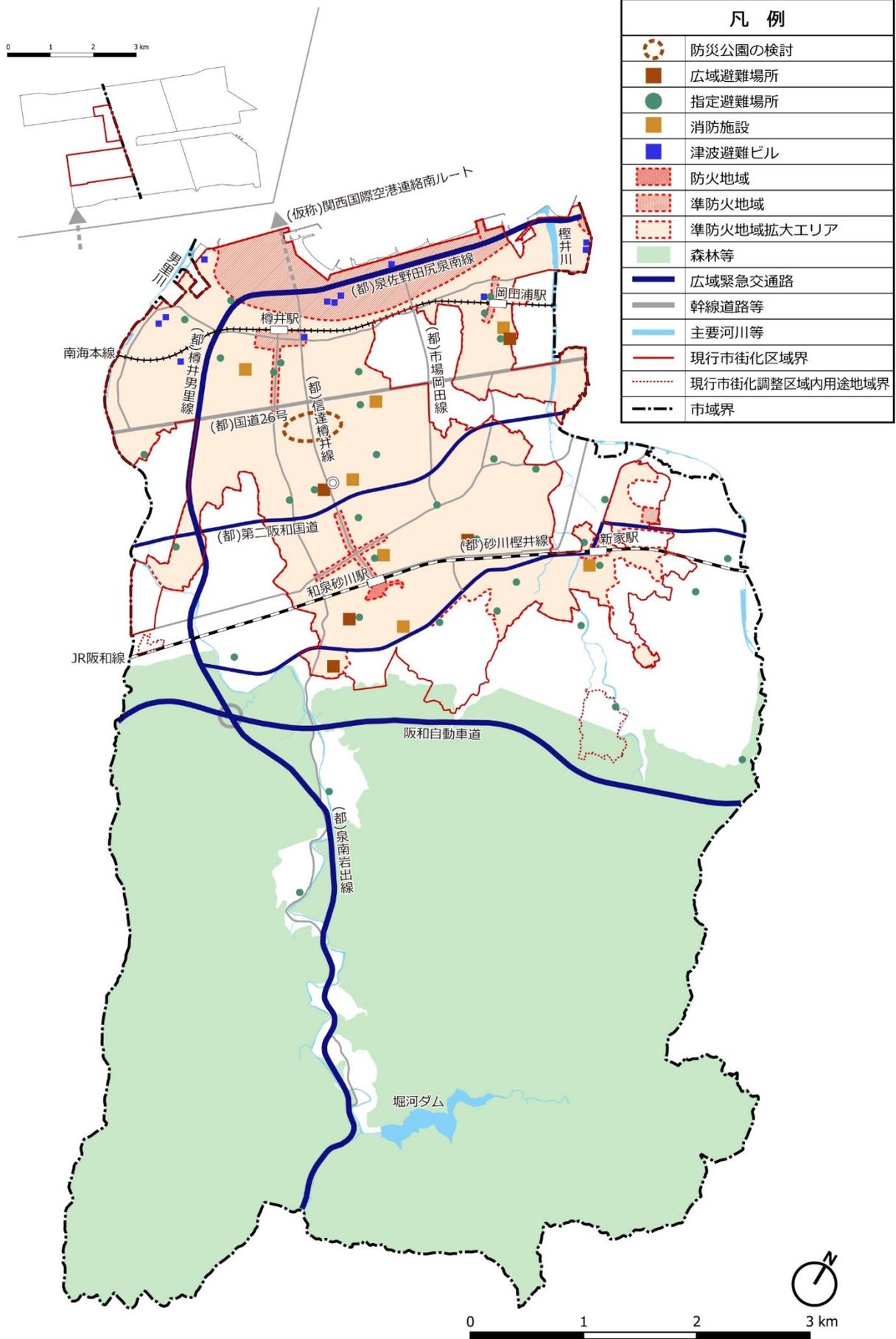


耐震フォーラムの様子

復興都市づくり

- ・大阪府が作成する被災者の生活、被災したまちを迅速に再建・回復するための「復興計画策定マニュアル」などを踏まえ、本市における事前復興計画策定の検討を進めます。

【都市防災の方針図】



(7)市街地・住宅地の方針

1)基本的考え方

- 本市の都市拠点や地域拠点などにおいては、拠点の特性に応じて、都市機能の集積・強化や居住を促進する為に、「泉南市立地適正化計画」や「泉南市地域公共交通計画」の策定に取り組みます。
また、広域交通基盤を活用した郊外型産業拠点の形成を計画的に誘導します。
- 周辺の農空間や居住環境との調和に配慮し、幹線道路の沿道機能を活用した活力ある商業業務型の沿道市街地の形成に努めます。
- 良好な住環境や住宅の安全性の確保、環境にやさしい住宅の普及などを促進するとともに、空き家所有者に適正管理を促進し、都市のスポンジ化を防ぐため、安全で安心な居住環境の向上に努めます。
- 地域住民などが都市計画に対して能動的に参加することを目的とする、都市計画提案制度などの活用を促進するため、客観的で透明性のある協働の都市づくりを進めます。

2)市街地の方針

立地適正化計画の策定

- ・コンパクトな都市づくりを実現するため、「泉南市立地適正化計画」の策定や都市再生整備事業などの活用に取り組みます。
- ・鉄道駅周辺の拠点などへの都市機能や居住の誘導とあわせて、「地域公共交通計画」に基づき、公共交通ネットワークの充実に努めます。

都市拠点の充実

- ・南海樽井駅周辺は、海側の都市拠点として、商業・業務施設などの集積とともに、公共施設の最適化に取り組み、都市機能の強化を図ります。
- ・JR 和泉砂川駅周辺は、山側の都市拠点として、自然や歴史景観との調和に配慮しつつ、土地の高度利用や立体利用などにより、商業サービス機能などの維持・向上とともに、公共施設の最適化に取り組みます。また、駅前広場の整備を継続的に推進します。

地域拠点の充実

- ・JR 新家駅周辺は、地域拠点として、公共施設の最適化や日常の生活利便機能などの維持・向上とともに、周辺の道路環境の改善に取り組みます。
- ・南海岡田浦駅周辺は、地域拠点として、自然災害対策や歴史環境などの調和に配慮しつつ、日常の生活利便機能などの誘導とともに、地域住民の利便増進を図るため、周辺道路などの環境改善や市有地などの有効活用に取り組みます。

多機能型中心拠点の形成

- ・市役所周辺の多機能型中心拠点では、行政機能やコミュニティ機能などの維持・向上を図るため、老朽化した公共施設の最適化の検討を進めます。

産業拠点の形成

- ・工業や商業などの複合的な機能を有する施設が立地するりんくうタウン南・中地区は、地区計画制度などの活用により、良好な操業環境や商業サービス機能の維持に努めます。

3)住宅地の方針

居住の促進

- ・都市拠点や地域拠点及びその周辺においては、人口密度を維持し生活サービス機能を確保するため、居住を促進します。

計画的住宅団地の再生

- ・人口減少・居住者の高齢化が進む泉南一丘団地は、「UR 賃貸住宅活用・再生ビジョン」に基づき、定住促進・住替循環などを促進するとともに、都市課題の共有など、UR 都市機構と連携を図ります。

良好な住環境の確保

- ・良好な住環境の維持・向上を図るため、地区計画や建築協定制度の活用により、地区の特性に応じたルールづくりを促進します。
- ・マンション管理の適正化に向けた取組を計画的に推進・促進するため、実態調査を実施し、「泉南市マンション管理適正化推進計画」の改訂に取り組み、多様な関係主体との連携のもと、管理水準の向上に努めます。

空き家対策の推進

- ・空き家所有者などに対する適正管理の意識啓発、専門家による相談窓口体制の整備及び利活用の促進を図るため、情報提供や支援に取り組みます。
- ・管理不全な状態にある空き家などに対して、「空家等対策の推進に関する特別措置法」による措置を的確に講じます。また、特定空家などを含む特定の要件を満たす空き家などの除却促進のため、除却費用の一部について補助を実施します。

※特定空家：倒壊など著しく保安上危険となる恐れ、著しく衛生上有害となる恐れ、著しく景観を損なっている空き家をいう。

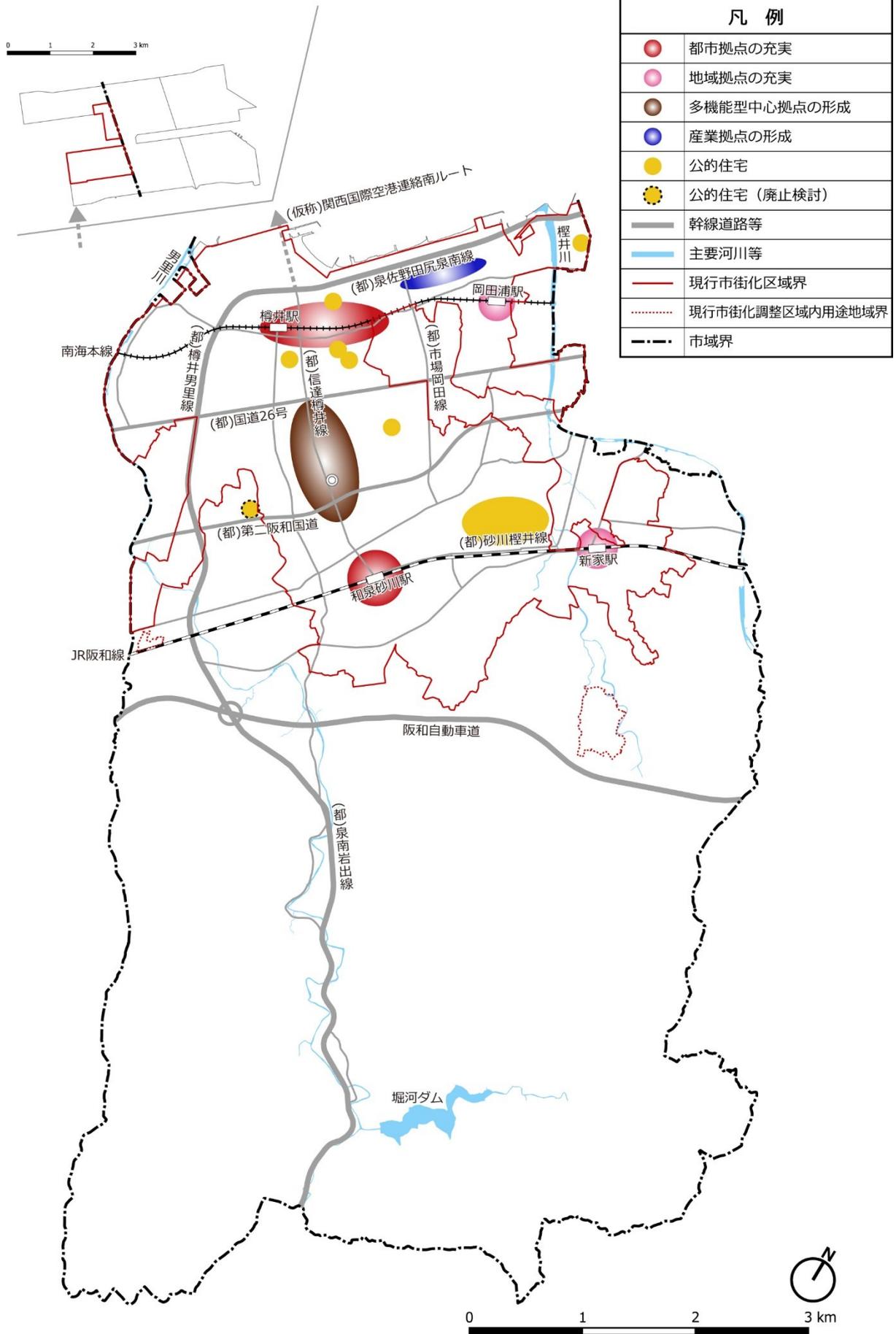
市営住宅の効率的な運用

- ・「泉南市営住宅長寿命化計画」に基づき、住宅ストックの最適化及び日常的な維持管理を適正に行うとともに、長寿命化及びライフサイクルコストの縮減に努め、計画的な改修や建替えなど、安心して暮らせる住まいの提供を図ります。

環境にやさしい住宅の普及

- ・生活環境の保全、公衆衛生の向上を図るため、「泉南市生活排水処理基本計画」により、公共下水道及び合併浄化槽の普及を促進します。
- ・市の公共建築物などについては、「泉南市地球温暖化対策実行計画」に基づき、屋上への太陽光パネル設置とともに、エネルギー消費量の実質ゼロとを目指す ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)などの導入を検討します。
- ・エネルギー消費量の実質ゼロを目指す ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)、ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)などに対する国の支援制度の周知に努めます。

【市街地・住宅地の方針】



(8) 地域環境の形成方針

1) 基本的考え方

- 金剛生駒紀泉国定公園を含む和泉葛城山系においては、森林や河川・ため池などの自然資源の保全・活用を図り、個性と魅力ある地域環境の形成に努めます。
- 森林環境譲与税を活用し、間伐や担い手の確保、木材利用の促進など林業の振興を図ります。
- カーボンニュートラル(CN)やグリーントランスフォーメーション(GX)など環境問題への対応による脱炭素型まちづくりを推進します。
- 都市における農地は、農業生産のみならず、水源涵養、防災、ヒートアイランド現象の緩和や多様な生物が生息できる環境機能、みどりの景観機能、農を楽しむレクリエーション機能など多面的な機能を有しており、市民が安全でうるおいを実感できる環境の創出に努めます。
- 豊かな地域資源を活かした戦略的な観光振興により、交流の機会づくりを推進します。
- 国内の二酸化炭素総排出量の約5割が、都市活動(家庭・業務・運輸)に由来しており、温室効果ガスの抑制やヒートアイランド現象の緩和をはじめ、環境保全対策などの取組により、環境に配慮した都市構造の形成を推進します。

2) 自然環境の保全・活用の方針

森林の保全と活用

- ・和泉葛城山系の自然環境は、森林の持つ公益的機能の充実に努めるとともに、里山の自然学校「紀泉わいわい村(府民の森)」などを通して、森林・林業・自然環境に対する関心や理解を深める活動を推進します。
- ・地球温暖化の防止や生物多様性などを保全するため、森林所有者など多様な主体により適正な森林管理と再生を促進します。



紀泉わいわい村

農空間の保全と活用

- ・「泉南農業振興地域整備計画」に基づき、都市的土地利用と農地的土地利用との健全な調和の観点から保存すべき農地を確保する一方、幹線道路沿道を活用した健全で秩序ある土地利用を促進します。
- ・「大阪府農空間保全条例」などにより、きめ細かな営農基盤の整備支援や、農地の貸借などにより、農業者をはじめ、企業や非農業者による利用を促進するなど、農業生産の向上と遊休農地の再生・活用を進めます。

生物多様性の確保

- ・都市における生物多様性を確保するため、大阪湾に残った貴重な自然海岸である男里川河口付近の自然干潟及び(仮称)りんくうはらっぱ周辺においては、地域団体などと様々な鳥類やハクセンシオマネキなどの生息環境を保全します。

3)環境保全の方針

脱炭素・カーボンニュートラル対策

- ・コンパクトなまちづくりを基軸に、高齢者、子育て世代を含めすべての市民が暮らしやすい持続可能なまちづくりを実現し、同時に都市の脱炭素化を実現するまちづくりを推進するため、「都市構造・交通分野」、「エネルギー分野」、「みどり分野」の3分野を基本に、カーボンニュートラル対策に取り組みます。
- ・幹線道路ネットワークの強化などによる円滑な交通処理や公共交通の利用促進により、CO₂排出量削減を図ります。
- ・観光振興、市内周遊促進の観点から、過度に自動車に頼らず公共交通や自転車利用などへの転換を自発的に促すコミュニケーション施策を中心とした「モビリティ・マネジメント」への取組について研究します。
- ・環境負荷の少ない低炭素都市を目指すため、太陽光発電をはじめとする新エネルギーや省エネルギー技術の活用、エネルギーの面的利用などを促進します。
- ・地区計画制度の導入を推進するとともに、地区計画区域内の建築物及び緑化率の制限に関する条例制度により、建築物の緑化を促進します。
- ・都市計画道路などの幹線道路を新設する場合は、地域の特性に合わせて植樹帯の設置や歩道における透水性舗装材の使用に取り組みます。

環境保全対策

- ・快適な市民生活が営めるよう大気、水質、騒音などの環境調査を継続し、市民・事業所と協力して公害を未然に防止します。
- ・3R(ごみ減量、再使用、再資源化)を推進しつつも、脱炭素社会に向け、より環境の負荷が少ない2R(ごみ減量、再使用)の優先を明確にした施策の拡充を図る必要があります。また、廃棄物の減量、その適正な処理に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。
- ・働きやすく住みやすい環境を創るため、用途地域や地区計画制度の活用などにより、適切に操業環境と住環境が調和する土地利用に努めます。
- ・関西国際空港における「環境ビジョン 2050」に基づくカーボンニュートラル化に向けた取組を支援します。

4)地域資源の活用の方針

観光・レジャー・レクリエーションの機能の維持・充実

- ・本市に積極的な関わりを持つ人の増加や、地域や経済の活性化を図るため、「泉南市観光振興ビジョン」に基づき、観光施策を計画的に推進します。
- ・りんくうタウンの海浜部の恵まれた自然環境や泉南りんくう公園(SENNAN LONG PARK)などのレクリエーション資源を活用し、四季を通じた体験型



泉南りんくう公園
(SENNAN LONG PARK)

の観光・レジャー・レクリエーション機能の進化を図ります。

- ・本市の魅力を高めるため、岡田漁港での養殖アナゴや水揚げされる新鮮なアナゴ・泉ダコなどの海産物や水なすなどの農産物など特産品の広報・PR活動を行うとともに、他の観光資源との連携や新たな地域資源の発掘に努めます。



漁業体験の様子

観光資源のネットワーク化

- ・インバウンド観光などを促進するため、市内事業者のほか、DMO や鉄道事業者などと連携を深め、熊野街道や史跡海会寺跡などの観光資源についての活用策を検討し、デジタルサイネージや SNS などを活用した情報発信に努めます。



男神社



林昌寺



金熊寺



野田藤

序章

第1章

第2章

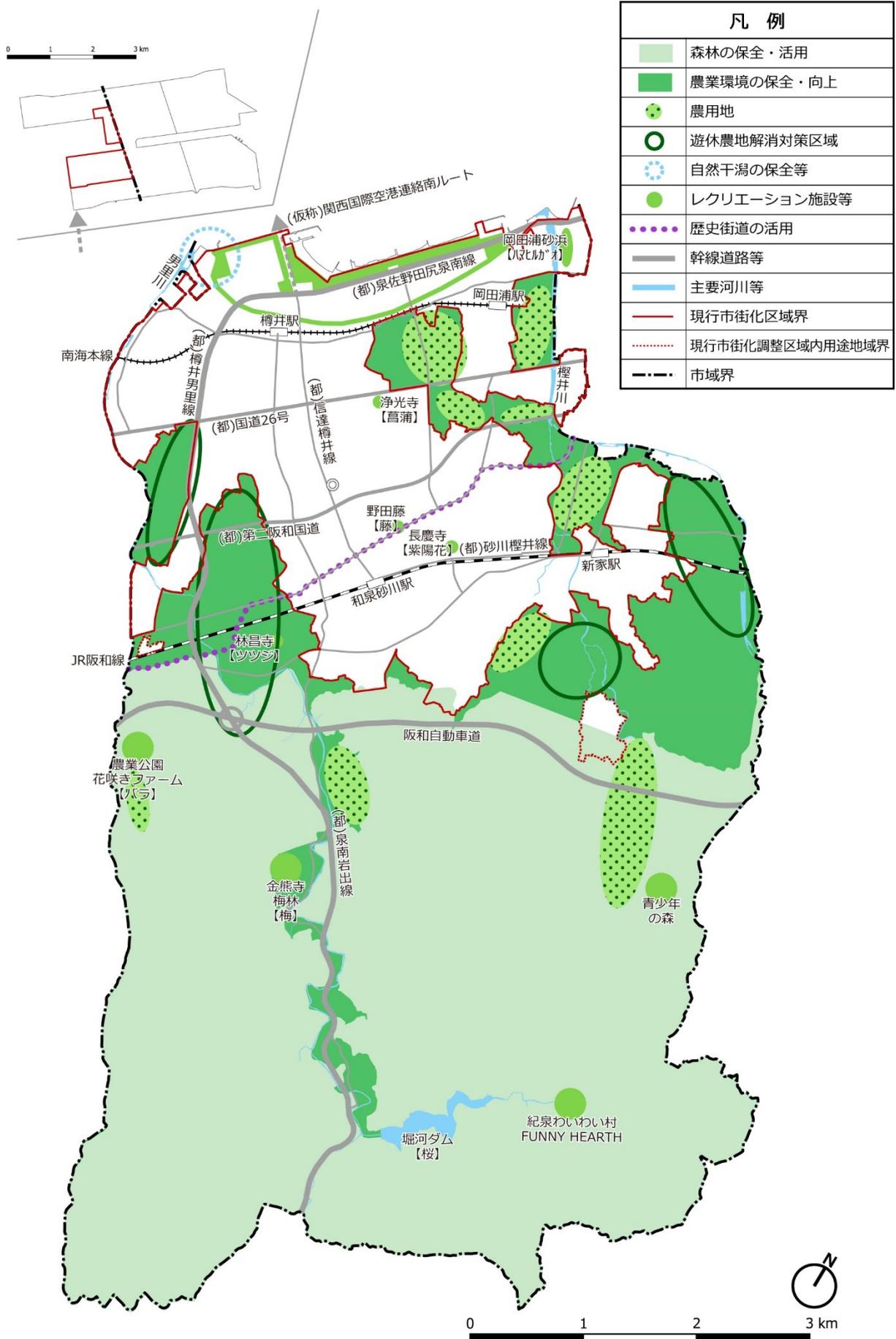
第3章

第4章

参考資料

全体構想 / 2 都市づくりの方針 (地域環境)

【地域環境の形成方針図】



(9)都市景観の形成方針

1)基本的考え方

- 景観行政団体への移行に取り組み、本市の特性に応じて、よりきめ細かな規制・誘導による景観まちづくりを推進します。
- 広域幹線道路軸としての沿道景観、和泉葛城山系の山並みなどの自然景観、湾岸部の景観、熊野街道の歴史景観などの保全と創出を図り、泉南市らしい魅力ある景観まちづくりを推進します。
- 地域の熟度に応じて、地区計画・建築協定制度などの手法により、良好なまちなみ景観を創出します。

2)都市景観の形成方針

景観計画の策定

- ・「泉南市らしい」景観まちづくりを進めるため、本市が景観行政団体に移行した場合、景観法に基づく「景観計画」の策定に取り組みます。

自然景観の保全

【山並み景観】

- ・和泉葛城山系の山並み景観を保全し、住宅地と農地、ため池などが一体となった田園風景の景観を創出します。

【河川・ため池景観】

- ・樫井川、男里川などの河川や市内に多数点在するため池については、良好な水辺景観を維持し、和泉葛城山系からの特色ある眺望景観を確保します。

【湾岸部景観】

- ・マールビーチや自然干潟などを含みりんくうタウン周辺の湾岸区域は、人々のやすらぎや憩いの場となる良好な水辺景観を維持保全し、魅力ある景観の維持・向上に取り組みます。

歴史景観の保全・活用

【歴史景観】

- ・熊野街道(紀州街道)と重なる府道と歌山貝塚線沿道では、信達宿本陣跡や伝統的な形式の建築物などが残る街道景観を守り育てるため、地域と連携して、歴史的なまちなみの保全・活用に努めます。



ハマボウフウ



ハマヒルガオ



信達宿本陣跡

まちなみ景観の保全・創出

【市街地景観】

- ・市街地や集落地におけるまちなみ景観の向上を図るため、地区計画や建築協定制度の活用により、地域の特性に応じたきめ細かな景観づくりを進めます。
- また、農空間においては、季節に応じた風景を維持します。

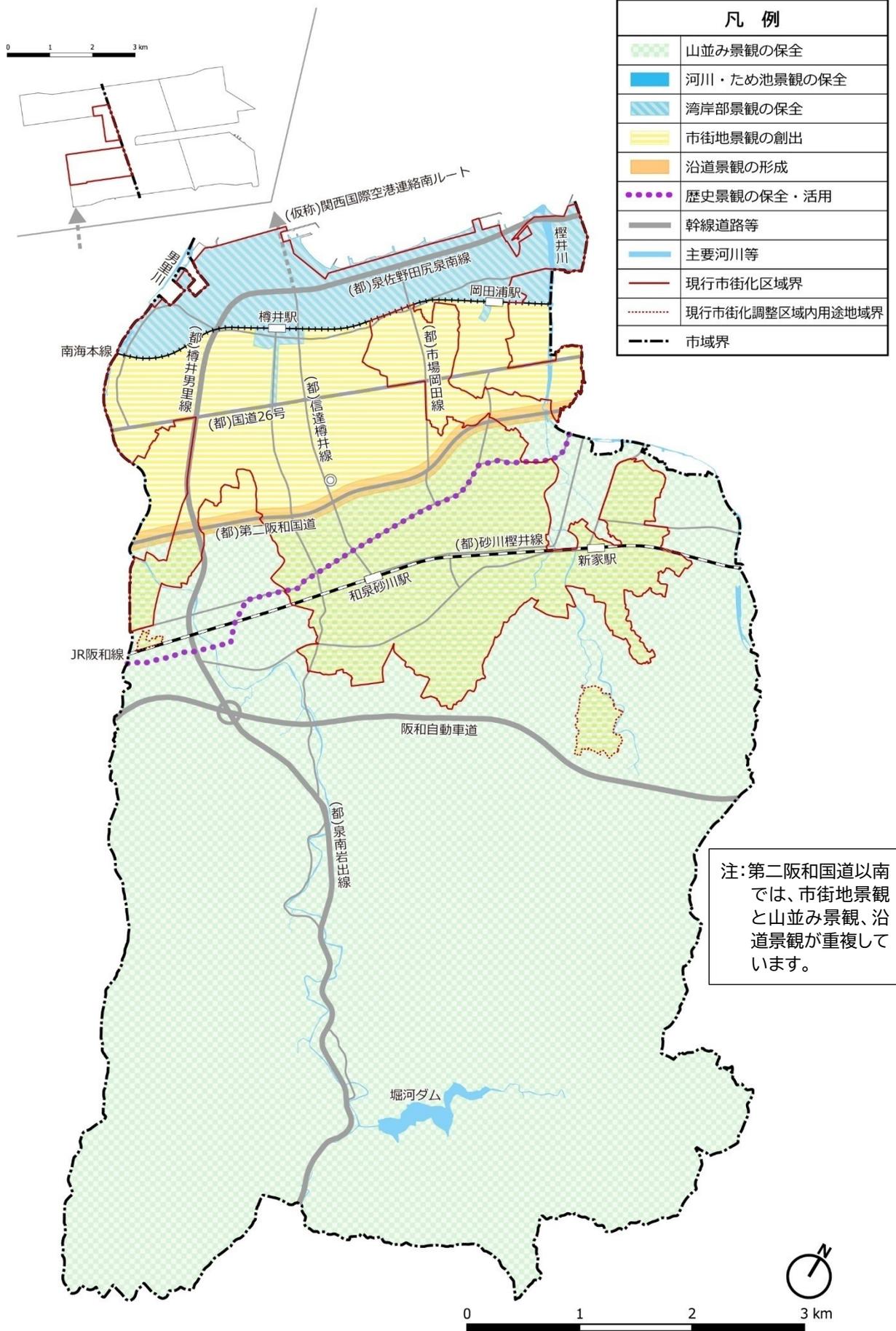
【沿道景観】

- ・広域幹線道路である(都)第二阪和国道沿道区域や、本市の中心都市軸である(都)信達樽井線においては、まちなみやまとまりに調和した秩序ある景観を創出する軸として質の高い道路景観を創出します。
- ・その他の幹線道路は、沿道市街地と一体となったみどりの軸として、沿道景観の向上に寄与する景観を創出します。

屋外広告物の規制・誘導

- ・まちの美観や自然の風致を損なわないよう、大阪府屋外広告物条例に基づき、屋外広告物の規制・誘導に努めます。

【都市景観の形成方針図】



序章

第1章

第2章

第3章

第4章

参考資料

全体構想 / 2 都市づくりの方針 (都市景観)

